

人生100年時代のいろいろ

収納

写真は全て当社の設計・デザインによる施工です。



▲通路に収納(宮崎市花山千)



▲スタディールーム・本収納(宮崎市大工町)



▲当社設計施工によるバック棚



▲リノベーション・キッチン & バック棚(宮崎市生目台)

▼寝室収納(都城市下長飯町)



▲納戸に小分け収納(宮崎市)

▼リノベーションLDK収納(宮崎市小松台)



同キッチン内部



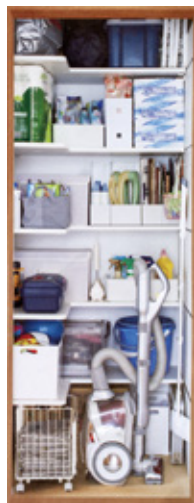
▼リノベーション・キッチン
(宮崎市大橋町)



▼脱衣室収納(鹿児島県大崎町)



▼押入リフォーム



LIXIL
ウィータスパネル
(商品紹介)



これが
こつなる



▼小屋裏収納(三股町)



▼リビングコア収納(宮崎市加世田)

リビングとサニタリー両方に隣り合わせた大型収納、急な来客にも片付OK



▼リビング収納 & テレワークデスク(宮崎市学園木花台南)



▲キッチン納戸、高さによって奥行きが
変えてあります(宮崎市大塚台)



▲裏面もこつぞろ!!

その4、究極の収納をめざして
それは断捨離です。
つまり入ってくるモノを断つ、あるモノを捨てる、モノへの執着から離れる。いずれも凡人にはハードルの高いことばかりですが、思いきり一つでお金もかからず、劇的にモノを減らすことができます。ただ実行してスッキリする人とりバウンドする人が居るそうですのでご用心。

その3、量から質へ

「収納率」は住まいの収納の充足度を示す目安になっていますが、最近ではモノを持たない傾向に加えて「質」の問題がいわれています。つまり、必要なモノが必要な場所に、必要な形で、必要に応じて無駄なく収納されているかどうか、そして取出しやすさよりも仕舞やすさ優先、キーワードは「適在適所&見える化」です。

その2、人は「ナマケモノ」

収納設計の重要なコンセプトに「人はナマケモノ」というのがあります。「出さっぱなし」という現象は、その「ナマケモノ」の気質によるものですが、それは人類が定住する以前の、片付ける必要のなかった長い時代の名残りです。その時代が人類の誕生以来約六百万年も続いたわけですから「収納問題」は、六百万年も続いた「ナマケモノDNA」への挑戦とも言えるのです。

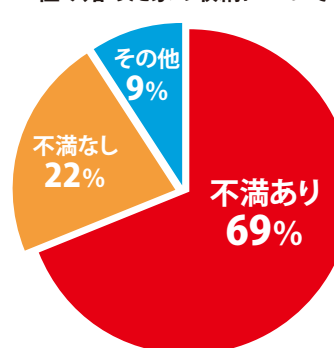
その1、衛生設備として

見落されがちなのが衛生設備としての「収納」です。「収納」が充分にあり、部屋がいつも片付いた状態であればそうも行き届き、カビ、ダニ、ホコリなどハウスダストが発生しません。ハウスダストは喘息を始めとする呼吸器系の疾患やアレルギー症の他、特に高齢者には肺に沈着し、免疫力を低下させ、老化を促進するといわれています。つまり収納の充実が精神的にも肉体的にもよい結果をもたらすのです。

ここでは「収納問題」を少し視点を変えて考えてみます。

2007年パナソニック調べ

住み始めた家の収納について



2007年パナソニック調べ

「収納問題」は、人類が定住を始めて以来、ヒトの暮らしに付きまとい続けてきた問題です。そして「家事」も、暮らしに必要な「モノ」も、時代とともに様変わりして今に至っています。しかもいまなお「現在進行形」のまま、完成形に達していないテーマなのです。左のグラフがそのことを雄弁に物語っています。

収納問題